

# 令和5年度 佐賀市立東与賀小学校 学校経営案

## I 学校経営

### 1 学校経営の基本構想

#### 学校経営の基本構想

##### 《学校経営の基軸》

“教育・共育・響育”で、

子どもにも教職員にも安全で居場所のある楽しい学校

##### 《学校教育目標》

ふるさとを愛し、自ら学び、ともに生きていく東よかつ子の育成  
—「元気」と「笑顔」あふれる学校—

##### めざす学校像

挨拶が響く学校 美しい学校 安全・安心な学校

##### めざす子ども像（東よかつ子）

- ・よく学びよくかえりながらの子
- ・つよい意志を持つ子
- ・こころやさしい子

##### めざす教師像

- ・教育愛に燃え、人権を尊重する教師
- ・研修に励み、協働し合う教師
- ・児童・保護者・地域に信頼され、ともに歩む教師

##### ＜新学習指導要領展開の基本的構え＞

- ◇【主体的な学び】 学ぶことに興味や関心を持ち、自己の学習活動を振り返って次の学習につなげる。
- ◇【対話的な学び】 子ども同士の協同、教職員や地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める。
- ◇【深い学び】 「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、創造したりする。

##### 健康・安全

- 体力作り
- 給食指導
- 安全教育
- 保健指導

##### 自主・自立

- たてわり活動
- 児童会活動
- 福祉
- クラブ活動

##### こころの教育

- 生徒指導
- 特別支援教育
- 人権・同和教育
- 道徳教育

##### 学力向上

- 基礎学力定着
- ICT教育
- 図書館教育
- 学習環境

##### 《学校経営の重点》

- ①学びの構えづくり
- ②心の教育の充実
- ③働き方改革の推進

##### 本年度の重点目標

- ①学習規律・生活のきまりの継続・徹底
- ②規範意識・仲間意識の醸成
- ③学年サポート制によるチーム支援

##### 《市民性教育》

ふるさとへの愛着と誇りの醸成

## 2 学校経営の基本方針

(1) 教職員としての志を持ち、資質能力の向上を図る。

① 全職員が、『継続・統一・徹底』を意識し、学年・学級間で指導事項を明確にして児童の指導にあたる。

② 学校教育目標のもとに、各学年の経営と並んで4部会(健康・安全、自主・自立、こころの教育、学力向上)の経営を策定し、各学年及び4部会の重点目標に沿って学級目標を定め、PDCAのサイクルで遂行していく。

③ 各教職員が組織の中での立ち位置を踏まえ、自己目標に沿って遂行していく。

(2) 組織を意識したチーム支援を徹底する。

① 横の組織(学年経営)で協働する。

○ 学年部会(木曜日課後)を設定し、学年サポート級外も担当学年に入り連携する。

○ 学年での教育活動は、所属する4つの部の方向性を取り入れながら取り組む。

○ 学年主任会を適宜開催し、進捗状況を確認し合い、学年間のつながりをもつ。

② 縦の組織(4部会)が相互に協働する。

○ 4部会(月1回:火曜日)に設定する。(行事等を鑑み必要に応じ適宜開催)

\* 「健康・安全」: 体力づくり、給食指導、安全教育、保健指導

\* 「自主・自立」: たてわり活動、児童会活動、福祉、クラブ活動

\* 「こころの教育」: 生徒指導、特別支援教育、人権・同和教育、清掃活動

\* 「学力向上」: 基礎学力定着、情報教育、図書館教育、学習環境

○ 活動内容については、専決事項と協議事項を峻別して全体へ提案していく。

○ 部長会(学期1回)を開催し、各部の取組状況の把握、形式的な評価を行い、必要な改善をしていく。

③ 横・縦の組織を連動させる。

○ 四者会(校長・教頭・指導教諭・主査)を設定し(毎週月曜日1校時)、学年経営、4部会経営の取組状況を把握、確認するとともに、予算の執行状況、校納金の状況、備品購入計画、安全点検の状況等について検討する場を設ける。

(3) 報告・連絡・相談を徹底し、指導の共有化、共通化を図る。

○ 問題点を覚知したら、担任・学年主任(担当者)・管理職ラインでの報告・連絡・相談で情報を共有し、その日のうちに関係する教職員で支援チームを立ち上げ、現状把握や今後の対応、再発防止策に至るまで支援チームで検討し、最終的には校長の判断のもと、すべてのことにあたる。

○ 問題行動の指導内容については、共有化、共通化(生活指導協議会)して行う。自信をもって指導にあたり、指導を継続していく。

○ 保護者や地域の対応は『誠実・迅速』を意識し、保護者や地域との信頼関係づくりに繋ぐ。

(4) 教育活動をユニバーサルデザイン化する。

○学習環境を整える。(簡素化と見える化)

○どの子にもわかる学習展開を工夫する。(視覚化・焦点化・共有化)

○支援の必要な児童に対しては、特別支援学級担任、生活指導員、特別支援学級支援員と連動する。

### 3 本年度の経営の重点

①学びの構えづくり → ①学習規律・生活のきまりの継続・徹底

②心の教育の充実 → ②規範意識・仲間意識の醸成

③働き方改革の推進 → ③学年サポート制によるチーム支援

### 4 教育活動展開の基本方針

#### (1) 心の教育の推進

○重点内容項目を中心として、「特別の教科 道徳」の授業を充実させ、道徳性を養う。

○地域の人的・物的学習環境等と連動した栽培活動や自然体験活動等の体験学習を通して、感性に培う。

○たてわり活動や学級・学年活動を推進して、異年齢・同年齢の児童同士の良好な関わり、ふれあいを通して、人間関係力を醸成する。(春の遠足・運動会・たてわり会食・たてわり掃除・たてわり遊び)

#### (2) 基礎的・基本的学習内容の定着と学習習慣の形成

○算数の学習において、TT や少人数での授業を仕組み、きめ細やかな指導で、基礎・基本の定着や活用力を身に付けさせる。

○朝の時間に15分間のモジュールタイムを設定し、補充学習等にあてる。

○学びへの構えとして、「聴くこと(立腰)」と学習習慣(「学習のやくそく」)を身に付けさせる。

#### (3) 特別支援教育の充実

○支援を要す児童(三段階)の支援・指導計画を立て、全職員で共通理解を行い、きめ細やかに支援する。

○校内支援体制の強化のため、関係機関と連携しながら適宜ケース会を設定し、適切な支援を推進する。

#### (4) 健康教育の推進

○運動を推奨し、心身ともに健康な児童を育成する。(よかつ子オリンピックの開催; 毎学期)

○学校と家庭が連携して基本的な生活習慣の定着や食育、保健指導・保健学習を推進し、健やかな生活をめざす。

#### (5) 安全・安心な生活づくり

○交通指導員やPTA(挨拶運動)、よかつ子見回り隊等、地域の方の見守りによる集団

登校、安全な下校を継続する。

○毎朝の集団登校を徹底させると共に、集団下校や年3回実施する避難訓練を通し、防災意識を高める。

○ヘルメット着用や防犯ブザー携帯、名札着用の徹底の取り組みを行う。特に1年生には交通安全協会支給の黄色帽子的着用を徹底し、他学年にも強く推奨することで安全な生活への意識を向上させる。また、「交通安全とヘルメット着用を誓う日」として、『あさひさんの日』（4月14日）を行う。

(6) 幼保小連携、小中連携の推進 ～15の春、夢にむかって～

○ソフトプログラム「わくわく」を積極的に活用し、幼保小の相互授業参観、児童・園児による交流を充実させる。

○義務教育9年間を見据え、各教科等の（研究）授業の相互参観や児童・生徒間交流、生徒指導上の情報交換等、小中連携による学習指導・生徒指導の連続性を重視していく。

(7) 開かれた学校づくりの推進

○「家庭での5つのめあて」を浸透させ、学習習慣・生活習慣づくりを、家庭と連動して推進する。

○ゲストティーチャーの導入やまちづくり協議会、地域ボランティアと連携した体験活動を行い、地域とのつながりを促進する。

○地域行事へ児童を積極的に参加させ、地域の一員であることを意識づける。

## 5 本年度の教育活動の重点

(1) 児童に、自分の存在を実感させ、自己肯定感を醸成していく。

○「よかよかタイム」を位置づけた授業を工夫し、自尊感情を高めていく。

○家庭（保護者参加型授業）や地域（ぼかぼかの木）と連動した道徳性の醸成のための施策を継続し、家庭・地域への啓発のため、学校だより等を通して発信し、HPに掲載する。

(2) 基礎的・基本的な学習内容を定着させる。

○算数を中心とした授業の工夫改善を校内研究の柱とし、基礎学力の定着をめざす。

○道徳以外の教科学習においても、「よかよかタイム」を積極的に取り入れ、対話的学びを通した言語能力の確実な育成を図る。

○一人一台パソコンを利活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。

○「学習のやくそく」の徹底と読書活動（全校58,000冊読破、「よかつ子本棚」の活用）を推進する。

○ユニバーサルデザイン教育の視点を取り入れ、視覚化・焦点化・共有化を意識した学習展開の工夫と学習環境を整備する。また積極的にICT機器の利活用を行う。

(3) 特別支援教育の体制作りと支援方法を確立する。

○通常の学級の在籍する困り感のある児童に対し、チームで連携した支援体制を整えるとともに、発達障害やその傾向のある児童への支援方法を確立する。

- 不登校傾向の児童に対し、計画的なケース会議を通して、スクールカウンセラーやサポート相談員等との連携を含めて、チームで連携した支援体制を整える。
- (4) いじめに対する予防的指導を多面的に行っていく。
- 「ぽかぽかの木」活動に年間を通して取り組ませ、児童相互の肯定的な見方や接し方を身に付けさせ、望ましい人間関係作りと自己肯定感の醸成をめざす。
  - 「いじめアンケート」を実施し、実態把握をもとにいじめに繋がる問題行動等への指導強化を図る。また、SC・サポート相談員・関係機関とも連携し、不登校児童への対応を強化する。
- (5) 市民性を育むために、教育活動の展開を工夫する。
- 生活科や総合的な学習の内容を再構成し、積極的に地域の物的・人的学習環境を導入する。
  - 「シチメンソウまつり」「東与賀町文化祭」等の地域行事へ参加し、地域の一員であることを実感させる。